

2025年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証（CP）

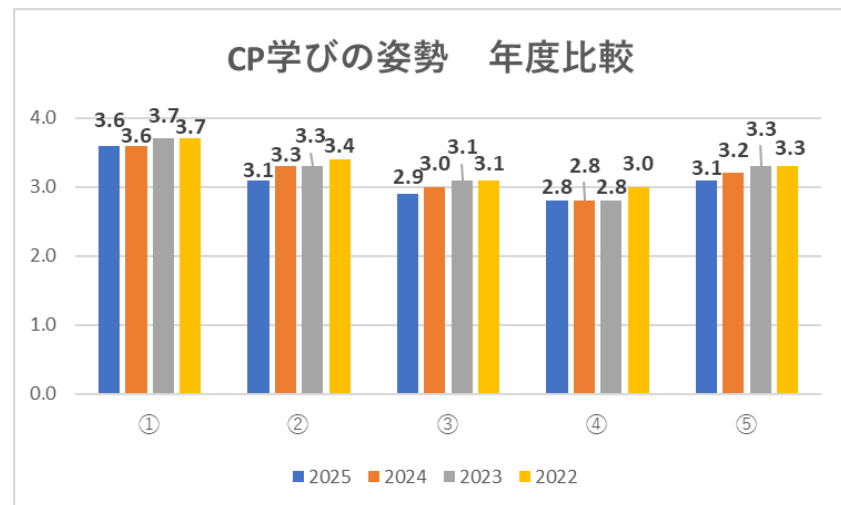
マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 社会福祉学科

カリキュラム・ポリシーに基づき「学びの姿勢ふり返り」として以下に示す5項目について5段階ルーブリック評価検証を行いました。回答者総数325（昨年309）、1年生217（昨年144）、2年生30（昨年63）、3年生46（昨年69）、4年生32（昨年33）であり、昨年度の回答者と概ね同様の結果でした。1年生の回答者数は73名増となりましたが2年生の回答者数が33名減となっており次年度の課題といえます。以下に示す結果（図）は各項目5段階（1～5点）の平均値の年次比較を示しています。

- ① 学修を通して他者を尊重する態度を身につけようと努めている
- ② 利用者の多角的理解に努められるような学修をしている
- ③ 現代の福祉環境を多角的・多面的に理解できるような学修をしている
- ④ ライフステージに応じた生活課題の発見と解決が主体的にできるようになるための学修をしている
- ⑤ 自分の将来像を意識した履修コースを選択している



満足度（点数）が低い項目は教育・学修方法等の改善を行う際の参考となります。年度比較は前年度平均値と比較し低いもしくは変化なしの場合は課題といえます。

【考察】

①～⑤の全ての項目がほぼ横ばいで変化がありませんでした。②の項目は若干評価が低くなっておりこの点については次年度の課題といえます。項目③と④はそれぞれ他の項目と比べ2.9, 2.8と評価が低い傾向にありました。この点は昨年同様でありリエゾンゼミや資格課程の演習等におけるフィールドワークやボランティア等の実践活動のさらなる充実が必要と思われます。全体的には③④以外は満足度が3.0以上であることから教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組は概ね適切に行われていると考えられます。